令和８年　　第４回

京 田 辺 市 議 会 定 例 会

一 般 質 問 通 告 書

京　田　辺　市　議　会

令　和　8　年　　第　4　回
京　田　辺　市　議　会　定　例　会
一　般　質　問　通　告　書　目　次

通告順位	議　員　名	ページ
１	河 本 隆 志 ・・・・・・・	1
２	早川由紀夫 ・・・・・・・	3
３	上　田　毅 ・・・・・・・	6
４	国 重 昂 平 ・・・・・・・	7
５	増富理津子 ・・・・・・・	9
６	南部登志子 ・・・・・・・	11
７	吉高裕佳子 ・・・・・・・	13
８	榎 本 昂 輔 ・・・・・・・	15
９	青木綱次郎 ・・・・・・・	18
１０	次 田 典 子 ・・・・・・・	20
１１	岡 本 亮 一 ・・・・・・・	22
１２	菊 川 和 滋 ・・・・・・・	23
１３	河 田 美 穂 ・・・・・・・	25
１４	向　川　弘 ・・・・・・・	26

順位１番　　河本　隆志　　（ＮＥＸＴ京田辺）

１　持続可能な行財政運営・まちづくりについて

(1) 中期まちづくりプランの折り返し地点における進捗と評価、並びに今後のまちづくりに対する市長の想いを問う。

(2) 真に必要な行政サービスへの適切な資源配分がなされるよう、中長期的な視点に立った持続可能な行財政運営が必要と考える。そこで、市の補助制度全般について適正化を進めていく必要があると考えるが、市の認識を問う。

(3) 官民共創のまちづくりの重要性が増す中、大学が立地するまちとして、大学との連携や共創の現状と今後についての展望を問う。

(4) 学生が卒業後も地域で活動してもらえる仕掛けについて、どう構築し、どのように展開していこうとされているのか問う。

(5) 官民連携について包括協定提携などを進めているが、成果と今後の方針を問う。

２　中学校吹奏楽部部活動楽器の管理等について

(1) 楽器の購入予算の財源確保とメンテナンスの現状把握について問う。

(2) 楽器寄付ふるさと納税の状況とクラウドファンディングの実施について問う。

３　成年後見人制度について

(1) 成年後見人の民法改正についての市の認識について問う。

(2) 市長申立てする方の対象としている範囲について問う。

(3) 専門職後見人等の報酬助成制度についての現状を問う。

河本　隆志

４　市職員の働き方について
(1) 市職員の兼職兼業の認可について、地域貢献活動、スポーツ・文化活動などの指導を行う市職員の営利企業などの従事制限の運用について問う。 (2) ボランティア休暇の利用実績について問う。
５　農業施策について
(1) 農業用資材・肥料等の物価高騰対策について問う。 (2) スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策について問う。 (3) 新規就農者（担い手実践農場）の継続的な支援について問う。

順位２番　　早川　由紀夫　　（日本維新の会）

１　本市の情報管理・セキュリティ等について

自治体や公的機関及び企業へのサイバー攻撃や不正アクセスが多発し、システム障害や個人情報の流出等が相次いで報道されているが、市民の財産やプライバシーを守る情報セキュリティ等について問う。

また、市民の個人情報等流出に伴う被害状況や被害の相談対応等を問う。

(1) 本市の情報セキュリティの基本方針や安全確保の取組状況を問う。

(2) 窓口やオンライン申請における個人情報保護の対策を問う。

(3) 生成ＡＩの活用状況とともに、市民サービスの向上や業務の効率化に向けた取組において、個人情報や機密情報が外部に流出するリスク等がある。

これを防ぐ運用ガイドラインの策定や安全な利用環境を担保するシステムの技術対策等の実施状況を問う。

(4) 市関係機関等との情報共有の状況、市業務（システム運用、データ入力、窓口業務等）における外部委託事業者への情報管理、個人情報等の提供及び情報漏えい防止の契約上の担保及び実効性のある対処や監督・確認体制を問う。

(5) 情報インシデント（漏えい等）が発生した際の初動対応、職員の情報リテラシー向上及び情報漏えい防止に向けた教育・研修や訓練の実施状況を問う。

(6) 今回の企業へのサイバー攻撃等による市民の被害状況や市消費生活センター等での対応状況及び関係機関等との連携状況を問う。

早川　由紀夫

２　浸水防止対策等について

本市では、木津川や府管理河川の氾濫、内水による被害を防ぐため、浸水防止・治水対策が進められているが、その進捗状況を問う。

また、最近は記録的な大雨やゲリラ豪雨、線状降水帯の頻発による内水氾濫・水害が各地で発生しているが、本市の想定雨量とハード面・ソフト面の対策を問う。

(1) 広域河川改修事業としての放水路新設や新西浜樋門・新西浜排水機場の整備等の進捗状況及び天井川等の維持管理への認識を問う。

(2) ハード面としては、内水氾濫に備えた排水施設の整備、道路冠水・アンダーパス対策、流域治水の強化及び雨水処理・流出抑制の施策を問う。

(3) ソフト面としては、早期の気象情報伝達やハザードマップによる避難場所・避難経路の確保及び誘導対策を問う。

また、車中泊避難の確保や避難所外避難者の支援への取組状況を問う。

３　図書館のあり方及び機能の充実について

公立図書館は、市民への書籍等の貸出や読書活動の提供・支援のほか、学習環境の整備や居場所づくりにより、生涯学習機能や知識・情報の提供機能、コミュニティ形成や多文化共生等の役割もあると考えるため、以下の点について問う。

(1) 本市の中央図書館等の利用状況、設備・機器の設置及び書籍・視聴覚資料等の整備状況、催事等（各種講座・イベント等）の実施状況を問う。

早川　由紀夫

図書館の役割・機能や市民からの声を踏まえ、現況の取組状況や課題をどのように認識・評価しているのか。 (2) 図書館機能の充実において、非来館型サービスの拡充、電子図書館機能の提供、学校図書館等他の図書館との連携や学校端末との連携活用などがあるが、現況及び今後の施策を問う。
４　道路路肩の雑草除草について
市道や府道等の路肩には雑草が繁茂しているところ、歩道や車道の通行障害、歩行者や自転車の安全や見通しが阻害されている現状への認識と対応を問う。

順位３番　　上田　毅　　（日本維新の会）

１　（仮称）草内こども園整備計画に係る交通安全対策の進捗状況について

(1) 住民説明会等で示された具体的懸念の内容について問う。

(2) 地域住民の理解を得るための具体的な交通安全対策について問う。

(3) 今後の合意形成とスケジュールについて問う。

２　保育所枠新規入所申請のオンライン化について

本市の保育所・こども園の保育所入所申請にあたり、新規入所の申請においてアナログ対応になっている事について問う。

３　留守家庭児童会について

(1) これまでの委託を進めてきたことの成果および課題について問う。

(2) 今年の夏休み期間での薪留守家庭児童会で発生した事案について問う。

(3) 今後の留守家庭児童会について、民間委託を進めていくのか。運営方法を含め教育委員会の考えを問う。

４　防犯カメラの設置および充実等について

(1) 令和１１年度より先の防犯カメラの設置について問う。

(2) 過去に設置したカメラの更新計画と日常の維持管理について問う。

(3) 防犯カメラの運用に係る職員の負担について問う。

順位４番　　国重　昂平　　（自民一新会）

１　京田辺市の将来的展望について

(1) 本市は、北陸新幹線での新駅が設置、新名神高速道路のアクセス道路となる大住草内線の整備などが予定をされている。本市においては非常に大きなポテンシャルを保持しているものと考えるが、市長は本市のポテンシャルを活かし、今後どのようなまちづくりを描いているのか問う。

(2) 少子化時代が今後も続くことが予想される中で、本市の「緑豊かで健康な文化田園都市」を今後も継続し、発展をさせていくために、市役所組織として今後どのように対応していくのか本市の認識を問う。

(3) 防災広場の１期目工事が来年４月に完了し防災倉庫が開場される。防災広場は、４期目まで完了されれば、災害時の自衛隊などの活動拠点となる想定がされている。現在工事中の場所に設置するに至った経緯と利点について問う。

２　教育環境について

(1) 本市では、令和７年６月に学校部活動及び地域クラブ活動指針を策定し、令和８年度から休日の部活動の地域展開を進めているが、指導者の確保や保護者の経済的負担、移動手段の確保、地域クラブの持続可能性など、様々な課題があると考える。これらの課題に対する市の認識と今後の取り組みについて問う。

　また、将来にわたり子どもたちの活動機会を確保するための運営体制について問う。

国重　昂平

(2) 本年５月より大住中学校において自転車通学が開始された。これまで自転車通学が認められていなかった同校において、新たな通学手段が導入されたことは、生徒の通学環境の改善につながるものと考える。

そこで、開始以降の利用状況や安全面などの現状をどのように把握しているのか問う。

また、今後の検証や改善に向けた取り組みとさらなる通学環境の充実に向けたスケジュールについて問う。

３　ひきこもり支援について

(1) ひきこもりは、かつては若年層の問題とされることが多かったが、近年では中高年層にも広がり、いわゆる８０５０問題など、当事者やその家族の高齢化、長期化が社会問題となっている。

そこで、本市におけるひきこもり状態にある方やその家族への支援について、現在の取組状況と課題、今後の支援の方向性について問う。

(2) 来年度から実施予定の重層的支援体制整備事業においても、ひきこもりをはじめ、複雑化・複合化した課題を抱える方への支援が重要になると考えるが、本事業では具体的にどのような取り組みを想定しているのか問う。

順位５番　　増富　理津子　　（日本共産党京田辺市議会議員団）

１　女性支援対策について

２０２４年４月に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行された。今年、３年後の見直しを迎えている。京田辺市では第３次男女共同参画計画に包含するものとしている。法の基本理念に基づいて現状を問う。

(1) 民間団体との連携や関係機関、民間団体など関係者により構成される支援調整会議を組織することが求められているが現状は。

(2) 女性相談支援員の配置状況、平均経験年数、平均時給の本市の現状は。また、相談員一人当たりの月平均の相談件数は。

(3) 一時保護については全国共通の８項目の基準が初めて示された。本市の対応は。また、本市における直近５年間の一時保護件数と民間シェルターへの入居件数は。

２　不登校対策について

全国で小・中学校の不登校はこの１０年で３倍と急激に増加し、約３５万人になった。これまで少なかった小学校低学年でも増えている。今こそ、子どもも親も安心できる支援策が求められている。以下、４点について問う。

(1) 本市における１０年間の小・中学生の不登校児童生徒数は。

(2) 教育支援センター「アイリス」、校内教育支援センターの児童生徒数、利用状況は。

(3) スクールカウンセラーの配置人数、現状と課題は。

(4) 本市のフリースクール等を利用している児童生徒数は。また、フリースクール等の平均利用料は。

増富　理津子

３　水害対策について

日本各地で線状降水帯による豪雨被害が発生しており、従来の防災対策では対応しきれない事態が増えている。多発する台風被害や集中豪雨、河川越水や貯水池溢水、用水路氾濫、施設の浸水等。これらの被害は人や家、農作物などに深刻な被害をもたらす。市民からも不安の声が寄せられている。

(1) 甘南備園の整備により、天津神川の下流域に対する大雨対策が必要では。天津神川は天井川であり、貯水槽は設置されているが想定外の大雨に対しての対策は十分か。

(2) 尼ケ池の東側地区に対する大雨対策は。

(3) 下水道の排水能力を超えて水が溢れる内水氾濫への対策の強化を。

(4) 防災マニュアルの改善も視野に入れて見直しを。

順位６番　　南部　登志子　　（無会派）

１　市内高齢者施設における、虐待を含む不適切支援について

以下の項目について、実態調査及び改善指導を求める。

(1) 入所者に対して、リスク回避と称して歩行補助用具を使えないようにしている。結果として、利用者が寝たきりになってしまっている。

(2) 口腔ケアをしていない。

(3) 利用者が入院中に、勝手に施設を退所させている。

(4) 本部が府外のため、ケアマネやかかりつけ医が遠方から来ている。そのため、対応に時間がかかる。

２　安心して生きていけるまちづくり

(1) ケアマネ・相談員の不足により、関係者の負担が増加している。また、適切な支援ができない現状もある。改善を求める。

(2) 視覚や聴覚に障がいがある方の災害時避難誘導について問う。

(3) 市による眼科検診の実施を求める。

(4) 手話言語条例制定に向けて、現状を問う。

(5) 失語症についての講演会が開催されることになった。市民からの反応について問うとともに、周知についての課題を問う。

南部　登志子

３　イスラム教徒女性に対する医療・検診等の課題

イスラム教徒の女性は、異性に対して肌を見せることをタブーとする。そのため、医療行為や検診等において特別な配慮が求められることになる。

(1) 診療、入院、手術、検診（市や学校の集団検診を含む）、介護、救急搬送時の対応について問う。

(2) 学校や企業向けのガイドラインの作成、及び研修の実施を。

順位７番　　吉高　裕佳子　　（無会派）

１　環境政策について

(1) 本市の公共施設での太陽光発電設備や省エネ設備の導入の現状と成果について問う。

(2) 現在、燃えるゴミとしている廃食用（天ぷら）油と刈り草や落ち葉について、令和５年３月の一般質問では、リサイクルや堆肥化などを研究していくとの答弁があったが、その後の進捗状況は。

(3) 環境基本計画の実現に向けて、市民が中心となり重点アクションチームを組成し、「コンポスト」「自然資源の活用」「断熱遮熱対策」などの推進が図られている。これらの重点アクションチームの取り組み状況を問う。

(4) １１月１日には、京田辺クロスパークで、第１３回環境フェスタが開催されたが、その意義や成果について問う。

(5) グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用し、災害対策や環境保全などの地域課題の解決を目指す考え方のことであり、まちづくりには欠かせない視点として、本市の環境基本計画や緑の基本計画などにも明記された。現在のグリーンインフラに関連する取り組みを確認するとともに、今後どのように推進していくのか、市の見解を問う。

２　読書のまち、京田辺を目指して

(1) インターネットの普及により、簡単に情報を得られるようになったが、その一方で活字離れや読書離れが加速している。

　読書は、単に情報を得るためだけではない。幅広い知識や教養が身に付く、感性や想像力が豊かになる、コミュニケーション力が向上するなど、多くの効果が期待されており、ＡＩ時代だからこそ読書は重要であるとの見解も多く示されている。

吉高　裕佳子

市民の福祉向上のため、読書の推進に一層の力を注ぎ、誰もが身近に本に触れ合えるまちを目指すことが求められていると考えるが市の認識は。

(2) 生涯学習の拠点である図書館で、赤ちゃんから高齢者まで全ての市民の読書活動を支えているのは、本と情報の専門家である司書と認識している。司書の体制を充実させることが市民の豊かな暮らしにつながると考えるが、市の認識とともに、現状を問う。

(3) 地域で読書活動の推進に取り組んでいる人々や図書ボランティアのほか、地域や大学等様々な主体と連携・協力し、読書のまちづくりを共に進めるための機会の創出やネットワークの構築が必要と考えるが市の見解は。

(4) 特に子どもの時代に本と触れ合い親しむことは非常に重要であるため、本市においても子ども読書活動推進計画の下で推進されている。

令和８年６月には第３次京田辺市子ども読書活動推進計画が策定されたが、特にどのような点を充実させたのか、これまでの取り組み成果を問う。

(5) 就学前施設や学校施設での読書環境（図書スペースや蔵書、読み聞かせ等）や司書等の体制の現状について問う。

順位８番　　榎本　昂輔　　（自民一新会）

１　田辺中央北地区新市街地整備について

(1) 田辺中央北地区新市街地整備について、土地区画整理事業や複合型公共施設の整備をはじめとする事業全体の現在の進捗状況と、今後のスケジュールについて問う。

(2) 当該地区は地区内への進入口が少なく、今後、公共施設や商業施設等が開業し利用者が増加すれば、周辺道路を含めた交通渋滞が懸念される。アクセス道路及び地区内道路の整備計画、開業後の交通量の見通し、渋滞対策について市の考えを問う。

(3) 地区内に整備する複合型公共施設は、造って終わりではなく、完成後の運用こそが重要である。施設の完成後、誰がどのように運用し、維持管理費や将来の更新費用をどのように見込んでいるのか、今後の運用について市の考えを問う。

２　民間活力の活用について

(1) 本市では、ＰＦＩや指定管理者制度、民間委託など、民間活力を活用した施設の整備・運営を進めている。既存の公共施設を含め、どのような運営管理体制を構築しているのか。また、民間活力の活用によって何を期待して進めているのか。

市の考えを問う。

(2) 民間事業者に運営を委ねた後、市が運営状況をどのように把握・評価し、課題が生じた際にどのように関与・指導しているのか。民間に委ねた施設・事業に対する市としてのマネジメントのあり方について問う。

(3) 今後、田辺中央北地区をはじめ民間活力の導入をさらに進めるにあたり、事業者のモニタリングや成果評価の仕組みをどのように構築し、市の責任を果たしていくのか問う。

榎本　昂輔

３　甘南備山のらせんのビューテラス（展望施設）について

(1) 令和６年度に設計業務、令和７年度に建設工事を実施した本施設について、設計費、工事費、その他関連経費を含めた最終的な総事業費はいくらとなったのか。延床面積７４㎡の施設として、通常の展望施設と比較して高額となった要因をどのように分析しているのか。また、設計業務の公募型プロポーザルは参加事業者が２者にとどまったが、十分な競争性が確保されたと評価しているのか。参加資格や要求水準、審査委員の構成、評価項目、配点を含め、選定過程の公平性・透明性をどのように担保したのか問う。

(2) 施設の見学会時に、観光ボランティアが施設・モニュメント部分に接触して負傷する事案があったと認識している。その事実関係と発生状況、設計・施工段階での安全基準やリスク評価、事故後の対策（現地確認、注意喚起、改修等）について問う。

(3) 当初予算資料では、本施設の目的を「市外からの来訪者数と市内滞在時間の増加」と明記している。約１億円規模の公費を投じた以上、来訪者数、市外来訪者割合、市内滞在時間について具体的な目標値（ＫＰＩ）を設定しているのか。何人の来訪をもって成果とするのか。また、甘南備山を訪れてそのまま帰られれば市内経済への波及効果は限定的であるが、飲食店や一休寺、駅周辺等への周遊、観光協会・民間事業者と連携した観光ルートの設定、市内消費額の測定について、市の考えを問う。

４　天理山古墳の現在の状況と活用計画について

(1) 天理山古墳について、市が取得するに至った経緯、取得の目的及び取得に要した費用について改めて問う。

(2) 天理山古墳の現在の状況について、土地の管理状況や発掘調査等の進捗を含めて

榎本　昂輔

問う。

(3) 取得時に示された活用計画について、その後の進捗状況と今後の具体的なスケジュール、市としての活用の方向性について問う。

順位９番　　青木　綱次郎　　（日本共産党京田辺市議会議員団）

１　北陸新幹線京都延伸計画について

(1) 国土交通省と鉄道運輸機構は、北陸新幹線京都延伸計画に関して、１０月２９日に京都府内の自治体関係者向け説明会を開催した。また、１１月２０日も説明会が開かれるとのことである。これらの説明会に関して以下の点を明らかにされたい。

ア　国土交通省及び鉄道運輸機構からの説明の内容と特徴、及び、京田辺市に関係のあることについて、どのようなことが説明されたのか。

イ　国土交通省及び鉄道運輸機構からの説明に対して、京田辺市はどのような発言、質問などをしたのか、その内容と、国土交通省、鉄道運輸機構から、どのような回答がされたのか。

ウ　同説明会について、京田辺市としてどのように受けとめ、評価しているのか。

(2) 京田辺市松井山手付近への新幹線新駅設置は、地上にせよ、地下にせよ、周辺の住宅などに大きな影響を与えるものであり、松井山手周辺のまち壊しになりかねないと考える。

また、新駅設置に伴う財政負担は、駅本体だけでなく駅周辺も含めれば巨額の負担になるものである。

これらについての市長の認識、考えを明らかにされたい。

２　介護保険について

(1) 今年度は介護保険料の見直しの年にあたる。２０２７年度からの介護保険料について、現時点での検討状況と見通しについて、明らかにされたい。

また、２７年度からの介護保険料は引き下げるべきと考えるが、市の見解を明らかにされたい。

青木　綱次郎

(2) 介護保険給付の負担割合について、公費負担が１／２とされているが、実態はそうなっていない。特に国の負担割合が減少している。国に対して、保険給付費の１／４を負担するよう、市としても国へ強く求めるべきではないか。

(3) 国は２７年度より介護サービスの基準緩和を可能とする「特定地域」指定制度の導入を打ち出している。同制度についての市長の見解を明らかにされたい。

順位１０番　　次田　典子　　（無会派）

１　北陸新幹線松井山手延伸について

(1) 自民・維新の与党整備委員会は延伸ルートを小浜・桂川・松井山手・新大阪と決定した。

　各地で事故が多発している大深度シールド工法の安全性や松井山手周辺の環境への影響をどのように考えているのか。市長は地下駅を求めた時点で、安全性や環境をどのように認識して求めたのか。

(2) 地元負担の軽減を言うだけでなく市民に説明会を行い、中・長期的な観点から、市民の立場に立って意見をきちんと国、鉄道・運輸機構に対して表明せよ。

２　女性や高齢者の人権問題について

(1) 市内における女性の就労や生活実態の状況はどうか。

(2) 子どもの不登校による女性の不登校離職が多い。このことにより経済的に厳しくなる。支援対策が必要ではないか。

(3) 高齢者、とりわけ女性の高齢者の経済や生活状況はどうか。市が行ったアンケートの分析をされ、その結果をどのように活かされているのか。

(4) 孤立する高齢者が増えている。高齢者だけでなく、市民が憩えるようにベンチの増設を行なってほしい。

次田　典子

３　児童虐待防止のために

(1)　１１月は、児童虐待防止月間となっている。市は、児童虐待防止法に基づきどのように取り組んでいるのか。

(2)　現在、市内における児童虐待件数が増加している。全国的にも増加する中、さらにどのような取り組みを考えているのか。

(3)　神戸市など他市で制定されている「子どもを虐待から守る条例」を作り、子どもを守るべきではないか。

４　不登校と公立夜間中学設置について

(1)　現在の不登校児童・生徒数や傾向はどのようになっているのか。

(2)　今年度、府教委の「多様な学習機会の確保の在り方についての検討会議」が３回開催された。市教委の認識と具体的対応はどうか。不登校対策として全国にわたり公立夜間中学校の設置が進んでいる。また、自主夜間中学やフリースクールへの行政的支援も論議されている。市ならびに市教委はどのように考えているのか。

５　いまこそコミュニティバスの導入を

ますます路線バスが減便される中、市民は大変困っている。今こそ、病院や買い物に出かけやすくするためにコミュニティバスを求める。

順位１１番　　岡本　亮一　　（日本共産党京田辺市議会議員団）

１　データセンター建設と京田辺市のまちづくりについて

(1) データセンター（ＤＣ）建設は多大な電力消費を伴う一方で、本市は環境負荷の低減と脱炭素社会の実現を目指している。このことについて、市はどのように整合性を図り、今後対応していくのかを問う。

(2) ＤＣ建設に伴う住環境について、稼働後の騒音や振動、低周波音、排熱などが周辺の住環境に影響を及ぼすことが懸念されるが、市の認識を問う。

(3) ＤＣ建設に伴う防災・安全対策及び住民の合意形成について、市はどのように認識し、住民の安全確保と継続的な情報公開を進めていくのかを問う。

２　南部地域における公共施設のあり方と今後の（仮称）南部住民センターの施設整備について

(1) 現行の南部まちづくりセンター（ミライロ）の交流スペースの混雑や健康サロン開催時の過密化、自習スペースの不足など、利用者から寄せられている課題を市はどのように把握しているのか。

また、それらの課題に対する認識と今後の対応について問う。

(2) ミライロの契約期間終了後を見据えた市の方針について問う。

(3) 複合型の（仮称）南部住民センター建設に向けた今後の整備計画について問う。

３　国民健康保険における傷病手当金制度の創設について

(1) 国民健康保険加入者が病気やけがによって就労できなくなった際、収入が途絶えることによる生活上のリスクについて、市はどのように認識しているのかを問う。

(2) 病気やけがによって働けなくなった国民健康保険加入者が安心して療養できる環境を整えるため、傷病手当金制度を創設すべきと考えるが、市の見解を問う。

順位１２番　　菊川　和滋　　（ＮＥＸＴ京田辺）

１　市立幼稚園・保育所の体制整備について

(1) 第２期再編整備計画を踏まえた、幼稚園・保育所における保育士等の現行配置状況及び国の配置基準の充足状況、採用募集・応募・合格・採用・辞退の状況について問う。

(2) 過去３年間の退職・離職状況、今後の採用確保策及び職員の定着支援、潜在保育士等の短時間勤務を含む柔軟な働き方による人材確保について問う。

(3) ＩＣＴ活用等による業務負担の軽減状況並びに、各園の突発的な人員需要等に対応する応援職員のプール型配置など、部内・庁内横断的な応援体制の構築について問う。

(4) 特別な配慮を要するこどもへの対応や地域の子育て支援等、公立施設が担うべき役割を明確にした上で、一部施設の民間移管や民間活力の導入を含む今後の運営形態の最適化について問う。

２　重層的支援体制の構築について

(1) 令和９年度の本格実施に向けた、これまでの課題整理の進捗、具体的な移行準備及び今後の実施スケジュールについて問う。

(2) 部局横断的な連携を実効あるものとする「チーム京田辺」の現状及び、全庁を束ねる総括的な司令塔機能の在り方について問う。

(3) 統括伴走支援員等の人員配置・設置場所並びに、多機関・多職種が連携するコア会議の具体的な運用体制について問う。

(4) 「たなごころプロジェクト」の市民、ボランティア、自治会及び関係団体への浸透状況と、地域づくりへの参画を広げるための今後の普及啓発策について問う。

菊川　和滋

３　政策推進室の組織的な在り方と機能強化について
(1) 各部局の政策推進室における政策立案・企画調整機能と、日常的な事務処理・資料取りまとめ等の負担との現状のバランス及び課題認識について問う。 (2) 二重調整の解消と意思決定の迅速化を図り、部局横断施策を推進するための、政策推進室の役割の再定義、事務負担の軽減、組織体制の見直し方針について問う。
４　４月人事異動の在り方と業務引き継ぎ体制の強化について
(1) 重層的支援体制や複合型公共施設建設等の全庁横断的な重要課題について、専門性や継続性を確保し、異動によるノウハウの喪失を防ぐための計画的な人員配置及び適切な異動サイクルについて問う。 (2) 複合的な課題を抱える世帯への支援や部局間調整の経緯を継続的に共有するための、引き継ぎガイドラインの整備、業務マニュアル・支援履歴・関係機関情報等のデジタル基盤への蓄積・活用について問う。 (3) 異動により新たに福祉部局や横断プロジェクトを担当する職員が円滑に業務を引き継ぎ、実践できるようにするための、着任後のフォローアップ体制及び伴走型研修について問う。

順位１３番　　河田　美穂　　（公明党）

１　こども性暴力防止法（日本版ＤＢＳ）の施行に向けた準備状況等について

(1) 日本版ＤＢＳの対象となる職種の整備は、進んでいるのか。

(2) 対象者に対する研修の実施状況は。

(3) こどもに対する「不適切な行為」の具体的事例の、整理と周知は。

(4) 留守家庭児童会の日本版ＤＢＳ認定取得に向けた現在の進捗状況は。

２　ヤングケアラーの実態把握について

(1) 本市におけるヤングケアラーの現状は、どのように把握しているのか。

(2) 市独自の、実態調査を実施すべき。

３　いのちを守る施策について

(1) 災害に備えた、日頃の取組みについて。（自助(ローリングストック・トイレ対策など)、共助(自主防災組織・防災士の拡充など)）

(2) 防災備蓄倉庫の運用をふまえた、避難所運営訓練（二巡目）の実施を充実していくには、どのように進めていくのか。

(3) 発災直後の初動活動を想定した、地域の取組みについて。（安否確認訓練や、身近な公園や公民館等への一時避難訓練の取り組みなど、先進地域の事例研修など）

４　高齢者が迷わず利用できる支援体制の構築について

(1) 情報発信と案内方法の工夫をして、気づきやすさを向上させるべき。

(2) 手続きの簡素化とデジタルを活用して、申し込みやすさを向上させるべき。

(3) 相談体制と人的サポートを充実し、つながりやすさを向上させるべき。

順位１４番　　向川　弘　　（公明党）

１　特殊詐欺ゼロ都市共同宣言と特殊詐欺防止対策のさらなる強化について

特殊詐欺は市民の財産と平穏な暮らしを脅かす許しがたい犯罪であり、その防止対策は喫緊の課題である。本市では防犯機能付き電話機等の購入費用補助金制度の継続的実施や、携帯電話にかかってくる詐欺電話をブロックする警察庁推奨アプリの導入支援を実施してきたことを高く評価する。そのような中、１１月に「特殊詐欺ゼロ都市共同宣言調印式」が行われたことに関し、以下の３点について問う。

(1) 特殊詐欺ゼロ都市共同宣言を行うに至った経緯と、その宣言に込められた意義について問う。

(2) この宣言を単なるセレモニーで終わらせず、特殊詐欺防止対策の宣言が、日々の生活を送る市民にとって、具体的にどのような効果をもたらすものと考えているのかを問う。

(3) 特殊詐欺防止対策の具体的な施策を含め、さらなる強化に向けた取り組みを問う。

２　誰もが安心して利用できる市役所窓口のユニバーサル化の状況と、その周知徹底について

近年、市役所窓口において様々な改善が図られ、聴覚に障がいのある方や日本語の不得意な外国人住民への対応が進められてきたことにより、多様な背景やハンディキャップを持つ方々が、スムーズに相談・対話ができる窓口環境へと進化している。

しかし、これらの便利なサポート体制が市民に伝わっていないのではないかと懸念している。窓口に来て、初めて「こんな便利なものがあったのか」と知るのではなく、事前に安心して足を運べる環境づくりこそが重要であることから、以下の２点を問う。

向川　弘

(1) 市役所窓口において、これまでに導入された軟骨伝導イヤホンやタブレットによる翻訳システム、字幕表示システム等、市役所窓口における応対改善の具体的な状況と、その利用実績や効果について問う。

(2) ハンディキャップを持つ方や日本語での応対に不慣れな外国籍の方へのサポート体制を、市民に対して分かりやすく広く周知し、理解を深めてもらうことが不可欠と考えるが、今後の広報・周知に対する市の見解を問う。

３　口腔の健康管理における歯周病の早期発見について

歯周病は歯を失う原因になるだけでなく、糖尿病や動脈硬化、さらには誤嚥性肺炎など、全身の様々な重大な疾患を引き起こすことが知られており、市民の健康寿命を延伸するためには、口腔の健康管理、特に歯周病の早期発見・早期治療が極めて重要である。こうした中、厚生労働省は生涯を通じた歯科健診の充実策を打ち出した。これは、本市で予防医療を大きく前進させる絶好のチャンスであることから、以下の２点を問う。

(1) 歯周病検診の実施状況および年齢別の対象人数・受診率・課題を問う。

(2) 国が２０２７年度からの導入を目指す、唾液による簡易検査の補助事業および、歯周病検診の対象者を、これまでの２０歳から７０歳の１０歳刻みから５歳刻みに拡充しようとしていることに対し、本市としてどのように情報をキャッチし対応・準備を進めていく考えかを問う。

４　ペット同伴避難（同室飼養）のための整備について

ペットは家族の一員であり、災害時においても同伴避難の重要性が深く認識され、本市でも災害時にはペットを連れて避難することを定めている。しかし、現状のルールでは、避難所においては人とペットの居住スペースは分けて管理することが原則と

なっている。そのため、飼い主の間からは、「ペットと離れなければならないなら、避難所には行かずに自宅や車内に留まろう」という、命に関わるリスクを伴う選択につながりかねない要因となっていることから、以下３点を問う。

(1) 災害時の避難所において、現時点でのペットを連れた避難をする場合に想定している具体的な方法を問う。

(2) ペットを飼っている方に対し、同伴避難（別室飼養や屋外飼養）のためのしつけおよびケージや餌、その他の備品等の準備状況の実態把握を行うと共に、そういった飼養環境に対応するための講習・訓練等を実施すべきと考えるが、市の取り組み状況と認識を問う。

(3) 広場や公園、テニスコート等に大型テント等を設営し、飼い主とペットが一緒にテント内で適切に管理・収容できるスペースを確保する等して同伴避難（同室飼養）ができるようにしてはどうか。市の見解を問う。